

## 小袋谷の小学校

明治五年に学制が發布され、全国を学区に細分して公立小学校を設置することになりました。明治六年前後にあちこちに小学校ができて、明治七年の文部省年報によると現在の鎌倉市の地域には十の小学校が設けられており、この辺りには共立学舎という学校があったことがわかります。この名の通り、小袋谷村と台村と大船村と山ノ内村との共立だったようです。そして八年の年報では校名に村名が付けれられ小袋谷学校と名称変更したことがわかり、九年の年報からその学校の場所が成福寺だったことがわかります。学校はその後、明治十年に一旦山ノ内村に移りますが、十二年には山ノ内村と分かれて、現在のN材木店の裏辺りに共立学校を設立しました。亀甲山の際に在ったので山岸学校とか亀のこ山の学校と呼ばれていたそうです。

明治二二年の六村合併により小坂村が誕生して、そして二三年に改正小学校令により共立学校と山内学校と岩瀬学校を合併して村立の尋常小学校を設置することが決定されましたが、その位置について各地区の思惑が絡み紛糾してなかなか決まらず、「鎌倉教育史」によると結局決まった場所は、鎌倉村との村境と今泉不動との中間点にしたとか、山内学校と岩瀬学校から歩いてその歩数を数えて等距離の所にしたという話です。小坂尋常小学校は、明治二六年十一月にやっと開校しました。